

<8月5日(金)-7日(日)第5戦第6戦レポート>

2016 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.5-6 EBISU DRIFT

コースコンディション:ドライ

PACIFIC RACING TEAM with DUNLOP 村山悌啓選手(車両:NAC ガールズ & パンツァー S14 激 メガテック)

最終成績:第5戦・単走13位/総合14位/第5戦・単走16位/総合1位

<本文>

第4戦で初優勝を果たした村山選手、この第5戦、第6戦の開催地エビスサーキットは、昔から走り込んでいるコースだ。前戦に引き続いての好成績が期待できる。

とはいえ、金曜日は決して順調ではなかった。練習走行1回目でデフが壊れ、交換していたものの、そのギヤ比もしくくり来なかったため、再度交換せざるを得なかった。さらにマシントラブルも発生し、金曜日の夜には、一度地元群馬に帰って修理をしてきた。シードのため、単走予選を走らずに済んだのは幸運だったかもしれない。

翌日、第5戦の単走決勝でもギヤ比は合わず、上位通過はならなかったが、なんとか追走に進出。そこでまたファイナルギヤを替えて、やっとまともに走れるようになった。

第5戦の追走ベスト16では、やはりエビスを走り慣れているTeam RE 雨宮 GruppelMの松井選手と対戦。松井選手のライン取りが村山選手の予想と異なったために、村山選手は後追いでアドバンテージを取れず敗れてしまった。最終順位は14位。しかし、ランキングはひとつ上がって5位になった。

そして日曜日は第6戦。単走決勝で村山選手は、スピードは比較的にあるものの、いまひとつ得点が上がりず、16位ぎりぎりでの追走進出となった。



追走トーナメント初戦は、前日に敗れている松井選手と対戦。村山選手は、今度は近いドリフトを見せたものの、松井選手にもやり返され、2本の判定の合計は五分。先行時のランク判定によってベスト8進出を決めた。

ベスト8の対戦相手は、YUKE'S Team ORANGEの末永選手だ。1本目は村山選手が先行、末永選手は村山選手との距離を詰められず、アドバンテージは取れなかった。2本目は末永選手が先行。末永選手は2コーナーでアウトにはらんでしまい、戻ってきたところで村山選手と接触したが、末永選手の減点のほうが大きく、村山選手の勝ちとなった。

そして準決勝の対戦相手は、現在ポイントランキング首位を独走中のWANLI FAT FIVE RACING 齋藤選手だ。1本目は村山選手が先行。齋藤選手は、村山選手の速いドリフトになんとか距離を詰めたものの、完全には捕らえきれず、アドバンテージは0.5を取るに留まった。2本目は齋藤選手が先行。そのスピードに村山選手も3コーナーまでかかって、やっと距離を詰めたが、齋藤選手が1コーナーでインカットしていたことによって減点されたため、村山選手の勝ちが決まった。

決勝に進出した村山選手、対戦相手はランキング3位のWISTERIA with TOYO TIRES 藤野選手だ。1本目は村山選手が先行。村山選手は最終コーナーの手前で藤野選手を引き離す。焦った藤野選手は1コーナーで無理に距離を詰め、2コーナーでスピンしてしまった。これでアドバンテージを得た村山選手は、2本目の後追いも大きなミスなく適度な距離でついていき、シーズン2勝目をマーク。第4戦の優勝がまぐれではないことを早くも証明してみせた。



<村山選手コメント>

松井くんには、昨日負けているので、絶対勝ちたいと思っていました。松井くんの場合は、上（※加速区間）がすごく自信があるのだと思うんですよ。なので、上でちぎられないで絶対に付いて行ってやるって行った感じです。末永直登さんは、スイッチが入るとやっぱり速いし、自分がちょっとでもヌルく走ると入られるのは分かっていたので、絶対先行でちぎってやると思って、空気はめいっぱい減らしてタイヤのグリップを上げました。次がダイゴ（※齋藤選手）でしたけど、やっとシリーズ1位の人とできるので、絶対入ってやろうと思って。最終コーナーも、今までに行ったことがないような速度だったのですが、スイッチが入っていたのでコントロールしきれました。決勝はけっこう落ち着いて走れましたね。

スポッターから、先行は自分のほうが速いというのは聞いていたので、とりあえずぶっちぎってやろう、という感じで行きました。これで上とのポイント差は縮まったと思うので、シリーズ3位目指して、最終戦に向けて、またがんばりたいと思います。

